



包括ケア会議だより

ジメジメとした日が続いていますが、雨に濡れ一層鮮やかな紫陽花があちらこちらに咲いていますので、ちょっと眺めてみてください。癒されますよ♪

さて、今回の個別事例会議は、居宅介護支援事業所と施設のケアマネジャー、高齢福祉課職員の方に参加していただき実施しました。

「自宅訪問ができないため、今後の生活意向が確認できない」 ケースの事例検討会を行いました。

本人はがん末期で、軽度認知症の家族と二人暮らしです。食事摂取も難しくなり、家事もままならない状態ですが、食べれば治る。介護の車がくると近所の目が気になる。これまで夫婦で介護サービスを利用せずに生活できたのだから大丈夫との考えから、自宅への訪問も介護サービス利用も希望されないため、生活状況や今後の生活意向が確認できずにいます。今後身体状況の悪化が予測される中、二人で生活し続けることは難しく、本人が亡くなった後の夫の生活も心配です。

対応策として、電話で本人との信頼関係を築く。事業所名の入っていない車で訪問する。二人一緒にサ高住で生

活する等の意見が出ました。方針としては、今後の治療、生活について本人の気持ちを確認して対応すること。そのためには、主治医から病状、今後の見通しを本人家族に説明してもらう機会をもち、本人の意向を踏まえ、施設入所や在宅生活を継続するためのサービスの提案をすることになりました。

自力でやってきたと思っている人にとって、自分でできていたことができなくなったことを認め、他者から支援を受けることは、抵抗があり受容するまで時間がかかると思います。その気持ちを押し量り、根気強く支え続けているケアマネジャーを今後も後押しできればと思います。

5月の経過報告

★「親族間で紛争が起きているケース」

ご親族間の紛争は根本的な解決に至っていませんが、ご本人様が望む暮らしを安心して実現できるよう、関係者間で連携を取り合い、支援を継続しています。



検討事例募集中!

困難事例を一緒に検討していきたいと思っています。
地域包括支援センターまで気軽にご連絡ご相談ください